

連合総研ブックレット No. 3
 '98 - '99 年内外情勢の推移
 —グローバル経済の試練と21世紀に立ち向かう連合—

第1部では、97年のアジア経済危機を契機に、「市場原理主義の危険性」への警鐘と「社会的セーフティ・ネット再構築の必要性」が重視され、世界の「潮流」が変化したことを明確にした。

第2部では、今回の日本の長期不況の原因は、①国民負担増をはじめとする緊縮財政への急旋回、②景気後退が、金融システム不安、アジア経済危機と相乗的作用して急激に悪化したにも拘わらず、政策対応が遅れた、③バブル崩壊後の不良債権処理の先送りが、大手金融機関も破綻する金融システム不安となった、という政策の失敗と位置づけている。従って連合は、「生活者重視」による「労働を中心とする福祉型社会」の政治を目指してゆく。

第3部では、不況とリストラに晒されている組合員の不安を除くために、連合は「100万人雇用創出」、景気対策、公正ワークルール確立、年金・医療改革などの実現を求め全国的な運動を展開した。また、下記の個別項目についてもきめ細かく対策を打ち出している。

目次

第I部 国際情勢の推移

はじめに ——— グローバル化の試練と課題

1. グローバル経済の不安定性の脆弱性
2. 新たな座標軸を模索する世界政治システム
3. 21世紀の「よりよき社会モデル」をめざす動き
4. グローバル経済と21世紀への労働組合の未来挑戦

第II部 国内情勢

1. 不況長期化のなかで「国民生活の不安」にどう立ち向かうか
2. 不況の長期化・深刻化の過程と推移
3. 金融危機下のグローバル経済への適応と日本の国際的役割
4. 漂流する政治 ——— 座標軸なき転換

第III部 雇用・社会をめぐる情勢の推移

1. 不況下で増す労働組合の課題と役割
2. 雇用をめぐる情勢と運動
3. 労働・雇用条件制度をめぐる運動と課題
4. 参加型労働関係の課題とワーク・ルールの確立
5. 春季生活闘争をめぐる推移と課題
6. 労働時間と賃金制度の諸問題
7. よりよき企業モデルを求めて—コーポレート・ガバナンスへの対応
8. 底固い福祉の再構築をめざして
9. 地球環境問題・NPOとの連携に取り組む連合
10. 組織の拡大・強化に立ち上がる連合

むすび ——— 21世紀への日本の労働組合運動の役割と位置